

学生企画活動支援事業活動報告

えほんのひろば

3周年月間イベント



毎週水曜日に一般開放を行っている「えほんのひろば」は今年で3周年を迎えました。そのため、7月を「3周年おめでとう月間」として、毎週水曜日に様々な企画を行いました。まずは「ながーい糸電話を作ろう」として、長い糸電話を作ってみました。講義棟の2階からえほんのひろばまで繋がった糸は約80メートル。来てくれた子ども達は普通では声が届かない距離にいる相手と会話を楽しんでいました。通常サイズの糸電話作りも行いました。

2週目は「バネ電話」作り。バネ電話は糸ではなくバネを使って作成するもので、声が反響して聞こえるので「エコー電話」とも呼ばれます。糸電話にはない不思議な感覚を楽しんでもらえました。この週は万華鏡作りやポリ袋パラシュート作りも行いました。

3週目は「お兄さんとあそぼう!」と称し、えほんのひろばスタッフと多くの子ども達が読み聞かせや工作など、いつも以上に触れ合いを楽しみました。普段は恥ずかしがっている子も、楽しくスタッフと遊んでいました。

4週目は「プラネタリウム」。ダンボールで半球ドームを作成し、星空を映し出しました。大人の方にも楽しめる企画となりました。

最後の週には新しく買った本にブックカバーと呼ばれる透明シート貼りや絵本の修理を、子どもや保護者の方と一緒に行いました。全体を通して平均30人ぐらいの参加がありました。これからも様々な企画を考え、毎週水曜日の一般開放を行います。どうぞ1度「えほんのひろば」に来てください!

記事:吉本浩希(教育発達基礎コース3回生)

Calligraphy in Melbourne ~外国人への書道の指導~

★オーストラリアでの活動記録

日本の伝統文化である「書道」を伝えるために初めて企画されたこの事業。私達はこの事業を通して、さまざまな新しい体験をすることができました。その体験の一部をここで紹介します。

まず小学校授業では、「書道」という日本文化を知らないオーストラリアの子ども達に書道を受け入れてもらえるか、不安でいっぱいでした。しかし、私達の心配をよそに、子ども達は書道に興味を持ち、熱心に作品を仕上げようとしてくれました。そんな子ども達の姿勢に感動したことが記憶に新しいです。日本のことばを日本の伝統的な筆記具で書くということは、彼らにとって珍しい体験であり、日本の文化に対する関心が深まったのではないかと思います。

また大学での授業では、一人一人への指導に加え、書のパフォーマンスを披露しました。普段私達は、書道をしている姿を見られることがないため、これまで感じたことのない緊張感に襲われましたが、見に来てくれた現地の大学生や先生がとても感動してくださり、「cool!!!」「wonderful!!!」といった賞賛の言葉を頂くことで、緊張が喜びへと変わりました。ただ指導するだけではなく、このようなパフォーマンスは書道を海外に広めるにあたって非常に有効であることを知りました。また見せる側としての技術力、パフォーマンスのやり方の工夫などについても新たに学んでみたいと思います。



最後に訪問した日本語学校。最も印象的であったのが、保護者(日本人)の方の熱意です。海外に住む日本人として、日本に住んでいる日本人以上に日本の文化を伝えていきたい、子ども達に経験させたいとの思いが伝わってきました。

初の企画とあり、期待と不安を持ちながらの今回の訪豪でしたが、このように大成功を収めることができました。書道をする生徒の真剣な眼差し、作品が出来た時の達成感に溢れる顔は一生忘れられません。そして何より、この体験を通して、私達が書道の素晴らしさや書道を教える楽しさを改めて実感できたことが一番大きな収穫かもしれません。

最後になりましたが、この事業を支えて下さった大学関係者の皆様方に心より感謝したいと思います。ありがとうございました。

記事:川田詩織(文化財・書道芸術コース3回生)

平成20年度 秋季留学生入学式を開催しました。

10月10日(金)午後4時30分から本学大会議室において、平成20年度日本語・日本文化研修留学生及び大学間交流協定に基づく交換留学生(18名)の入学式が挙行されました。

学長、副学長、留学生委員会委員長、指導教員等関係者が列席され、学長から入学許可のあと在学を代表して廣田貴也さんの歓迎のことばがあり、式は滞りなく終了しました。

なお、18名の内訳は、アゼルバイジャン1名、インドネシア1名、韓国2名、ベトナム2名、モンゴル1名、セルビア1名、ドイツ1名、フランス2名、ポーランド1名、ルーマニア2名、アメリカ4名です。



平成20年度 国立大学法人奈良教育大学
秋季留学生入学式